

京都府政記者室、各広域振興局、京都市政記者クラブ、教育記者クラブ、
都道府県記者クラブ、関西プレスクラブ 同時資料配付

令和6年9月26日

高校生が主役の舞台を見に行こう！

～「令和6年度全国高校生伝統文化フェスティバル」一般観覧募集～

■文化庁、京都府、京都府高等学校文化連盟では、伝統文化の継承・発展に取り組む高校生の“晴れの舞台”として12月に開催する「令和6年度全国高校生伝統文化フェスティバル」について、「伝統芸能選抜公演」の一般観覧者を9月27日から募集しますので周知をお願いします。

1 「伝統芸能選抜公演」の概要

- (1) 開催日時 令和6年12月15日(日) 午後1時～午後3時30分(予定)
- (2) 会場 京都コンサートホール(京都市左京区下鴨半木町1番地の26)
- (3) 出演校情報 別紙1参照
- (4) 迎え花 京都府立嵯峨野高等学校、京都府立桂高等学校、京都府立南丹高等学校
- (5) おもてなし隊によるお出迎え(別紙2参照)

2 観覧者募集(観覧無料、定員800名(応募多数の場合は抽選))

- (1) 募集期間 令和6年9月27日(金)～11月15日(金) 必着
- (2) 応募方法 Webフォーム又は郵送による申込み

【Webフォーム】<https://sgfm.jp/f/2024denfes>

【郵送】往復はがきに、氏名(カナ)、住所、郵便番号、電話番号を記入の上、以下の宛先まで送付

(送付先) 〒604-0857 京都市中京区烏丸通二条上ル蒔絵屋町256番地
(株) 関広内

全国高校生伝統文化フェスティバル運営事務局

【問合せ先】同事務局 電話 070-1388-9650

(午前10時～午後6時 土日祝除く。ただし12月14日、15日は営業。)

(3) その他

- ・抽選結果は、それぞれの申込方法により通知され、当選の場合は通知と併せて入場券を送付します。(11月下旬予定)
- ・1つの申込みで、2名様まで応募できます。

3 主催

文化庁、京都府、京都府高等学校文化連盟

4 取材

当日の取材方法につきましては、12月初旬に改めて御案内いたします。

5 その他

「全国高校生伝統文化フェスティバル」ロゴマークの使用申請につきましては、右のQRコードから京都府HP「「全国高校生伝統文化フェスティバル」ロゴマークについて」を御参照ください。

(<https://www.pref.kyoto.jp/koukoudenfes/news/2016/rogo.html>)



<本報道発表に関するお問合せ>

【文化庁】参事官(生活文化創造担当) 付

山口、山崎、田中

<電話：075-451-9569>

【京都府】文化生活部企画専門役

橋本 太美雄

<電話：075-414-4277>

伝統芸能選抜公演出演校一覧

<歓迎公演>

京都光華高等学校 和太鼓部



京都光華高等学校和太鼓部は、関西唯一の女子校和太鼓部で、校訓の「美しいひととなろう」を軸として、「魅せる和太鼓」をモットーとして活動中。伝統的に三宅台を使った横打ちの演奏を行っており、三宅太鼓やオリジナル曲など様々な曲に挑戦。お披露目できる曲目も増え、令和5年度に初の定期演奏会を実施。

また、地域での演奏などにも積極的に参加し、和太鼓の魅力を少しでも伝えられるよう日々練習に励んでいる。

活動実績

- ・第5回全国七人制和太鼓選手権大会・女子の部 第4位
- ・第26回日本太鼓ジュニアコンクール 京都府代表 入賞
- ・近畿高等学校総合文化祭 平成30年度より7年連続出場
- ・令和5年度 京都府高等学校総合文化祭 郷土芸能部門 文化連盟賞
- ・その他、定期演奏会や夏祭り、留学生の体験イベントや依頼演奏など(年間計20回程度外部出演)

演目

海焰-KAIEN-

今回演奏させていただく「海焰-KAIEN-」は、大航海時代の海へ挑む船乗りの熱い気持ちを表現した曲になっており、大海原を自らの手で切り拓いた船乗りたちの挑戦をテーマとした曲である。

嵐あり、宴あり、開拓ありといった、曲を通して構成された物語を想像しながらお楽しみください。

アピールポイント又は出演者の意気込み

京都光華の伝統である横打ちのパフォーマンスを中心に、それぞれのシーンでの感情や情景を表現していきます。演奏だけでなく、姿勢や表情でも曲のテーマと「魅せる和太鼓」を皆さまに届けられるように頑張ります。

伝統芸能選抜公演出演校一覧

<日本音楽部門>

土佐女子高等学校 邦楽部



土佐女子高等学校は、明治35年に設立した中高一貫の女子校。邦楽部は、昭和11年より活動し、現在
は中高合わせて18名。少人数ではあるが、一人一人が自分の音に自信をもって演奏できるよう日々の
練習に励んでいる。

毎年4月に開催している定期演奏会をはじめ、音楽会などの学校行事での演奏、地域の学校や施設等
への訪問演奏を行っている。2023年は、高知県出身の牧野富太郎博士のイベントで演奏し、全国高等
学校総合文化祭にも毎年出場。

長い伝統の中で紡がれてきたお箏の音色を一人でも多くの方に届けることを目標としている。

活動実績

- 2022年 全国高等学校総合文化祭 東京大会 出場
- 2023年 全国高等学校総合文化祭 鹿児島大会 出場
- 2024年 全国高等学校総合文化祭 岐阜大会 出場 など

演目

箏五重奏曲 三つのフェスタルバラード

箏五重奏曲三つのフェスタルバラードは、三楽章で構成。この曲は、作者の故郷が舞台となっており、三楽章それぞれに
その風景が映し出されています。作者の見たであろう情景を思い浮かべながら演奏いたします。

アピールポイント又は出演者の意気込み

5名という少人数での演奏になりますが、息の合った力強い演奏をご覧ください。

伝統芸能選抜公演出演校一覧

<特別枠>

高知県立檮原高等学校 ディスカバークラブ



高知県檮原町には、地域の人々に広く愛されている津野山神楽(「土佐の神楽」として国の重要無形民俗文化財に指定)があり、この津野山神楽を次の世代に継承し、さらに発展させていくため、津野山神楽保存会の方のご指導のもと学校の総合的な探究の授業において男子11名女子11名で日々活動中。また、地元イベントでの活動も行っており、地域活性化の一端を担う期待も背負っている。

活動実績

2023年 高校生の神楽甲子園ひろしま安芸高田 神楽伝統奨励賞

高知県高等学校総合文化祭 優秀賞

四国地区高等学校演劇研究大会 生徒文化交流会への招待出演 など

演目

鬼神退治

日本神話に登場する建御雷神と鬼神との戦いを舞楽風に仕組んだ内容。建御雷神と鬼神が問答の末、対立し戦いを始めるシーンはとても盛り上がるシーンである。

最後は鬼神の首を取り勝利に歓喜する建御雷神の姿を表現している。

アピールポイント又は出演者の意気込み

建御雷神と鬼神との戦いの場面の臨場感を出すために、舞の動きと楽の演奏との連携に気を付けて取り組んできました。その場面や臨場感にご注目ください。

伝統芸能選抜公演出演校一覧

<吟詠剣詩舞部門>

清流の国ぎふ総文吟詠剣詩舞チーム



「清流の国ぎふ総文吟詠剣詩舞チーム」は、2024年8月に開催された第48回全国高等学校総合文化祭に出演したメンバーで構成。「吟詠剣詩舞部」の部活動がある2校(岐阜県立岐阜総合学園高等学校、岐阜県立大垣桜高等学校)から剣士、舞士が出演する。

公益団体「吟剣詩舞道総連盟」主催の発表会や県総文祭、全国総文祭に出場。また各学校で、地域イベントや福祉施設、学校紹介行事、文化祭などで演舞を披露している。

さらに、本年度の全国総文祭のPR活動として、昨年度より県庁舎やショッピングモール3店舗でも披露。

活動実績

2022年 全国高等学校総合文化祭 東京大会 出場
2023年 全国高等学校総合文化祭 鹿児島大会 出場
2024年 全国高等学校総合文化祭 岐阜大会 出場 など

演目

霧が城物語・木曾三川讃歌

霧が城物語 岐阜県恵那市の岩村城、別名「霧が城」は女城主「お直の方」が治めていた城として知られている。その栄枯盛衰を詠った曲に合わせて勇ましく、かつ悲哀を込めて踊る。

木曾三川讃歌 岐阜県が誇る揖斐川、長良川、木曾川の美しく滔々と流れる様を表現。この川は江戸時代の宝暦治水工事で多くの薩摩藩士によって整備された。後世に薩摩義士の功績を伝えたいと思い選曲した。(鹿児島県と岐阜県は姉妹都市である。)

アピールポイント又は出演者の意気込み

吟詠剣詩舞という伝統芸能を、岐阜県の歴史や風景を詠った曲で披露します。剣詩舞は学べば学ぶほど、歌詞に込められた思いを舞で表現することの難しさや奥深さを感じ、その思いが伝わるように頑張ります。

伝統芸能選抜公演出演校一覧

<郷土芸能部門(伝承系)>

岩手県立岩泉高等学校 郷土芸能同好会



岩手県立岩泉高等学校は、日本三大鍾乳洞の龍泉洞や、日本一長い鍾乳洞安家洞、日本で初めて発見された恐竜化石を産した茂師海岸などの三陸ジオパーク内にある、本州一広い町にある小規模な普通科高校。

郷土芸能同好会は、平成元年に創部。災害時の地域の絆や復興の支えになってきた芸能を、次世代に継承していくことや郷土に伝わる軽快で心浮き立つお囃子と躍動的な「中野七頭舞」を多くの方々に広めることをモットーとしている。

また、郷土芸能に取り組むことで、地域の魅力を再発見し過疎地域の観光活性化につなげている。高齢者施設での演舞や中学生や地域を巻き込みながら、県内外の高校郷土芸能団体との発表交流を兼ねた郷土芸能イベントも開催し、積極的に活動中。

活動実績

2022年 全国高等学校総合文化祭 東京大会 優良賞

2024年 全国高等学校総合文化祭 岐阜大会 出場 など

演目

中 野 七 頭 舞

岩泉町小本地区に受け継がれてきた伝承芸能であり、踊り手の七つの役割(道具)と七種類の舞で、原野を開墾し作物を植え、害獣から田畑を守り、収穫を分かち合う農民の日々の営みを軽快なお囃子と舞で表現します。

アピールポイント又は出演者の意気込み

七頭舞の由来である、七つ道具「先打ち・谷地払い・薙刀・太刀・杵・小鳥・ササラスリ」、舞の七種のうち「道具取り・横跳ね・チラシ・戦い・ツットウツ・三足」の六種を軽快なお囃子とともに力強く舞い踊ります。

伝統芸能選抜公演出演校一覧

<郷土芸能部門(和太鼓)>

愛知県立松蔭高等学校 和太鼓部



愛知県立松蔭高等学校は、名古屋駅から西へ2kmの静かな住宅地に建つ、創立80余年の普通科高校。「部活動の盛んな進学校」をスローガンに生徒一同日夜勉強と部活動に取り組んでいる。

和太鼓部は、平成元年同窓会として発足。近年は伝統的な神楽太鼓の曲ばかりではなく、現代曲や津軽三味線などの違う楽器とのコラボにも果敢に挑戦。名古屋城・徳川園など、名所での演奏と地域のお祭りへの出演や老人ホームの訪問演奏など地元との交流も大切にしている。

活動実績

2017年 富士山太鼓甲子園優秀賞受賞

全国高等学校総合文化祭 宮城大会 文化庁長官賞、国立劇場にて演奏

2018年 愛知県教育文化奨励賞受賞

2019年 全国高等学校総合文化祭 佐賀大会 優良賞

2021年 全国高等学校総合文化祭 和歌山大会 文化庁長官賞、国立劇場にて演奏

2022年 全国高等学校総合文化祭 東京大会 優良賞

2023年 全国高等学校総合文化祭 鹿児島大会 最優秀賞・文部科学大臣賞

2024年 全国高等学校総合文化祭 岐阜大会 最優秀賞・文部科学大臣賞ほか、和太鼓プロ集団とのコラボ・招待演奏多数

演目

神楽太鼓組曲「祈り」

尾張南西部に伝わる、左手でバチを回しながら長胴太鼓と締め太鼓を打つ曲太鼓を特徴とする郷土芸能「神楽太鼓」と、地元名古屋市中村区烏森町に伝わる「町之切獅子舞」を題材にして、ストーリー性&メッセージ性を盛り込んだ舞台作品。

アピールポイント又は出演者の意気込み

「道具の量だけは、うちは毎回日本一だよ！」と思うくらい、各場面に多くの「出し物」を仕掛けています。それらが1つの流れを持って「日本の芸能の心」をお客様に伝えられるか？それが我々のチャレンジです!!

全体交流会出演校

<歓迎公演>

京都府立菟道高等学校



京都府立菟道高等学校は、1985年に宇治の五ヶ庄で開校し、2024年で40周年を迎える。古来は「うじ」と呼んでいた「菟道」にちなんで、菟道高校と名付けられる。本校では「さとく、さやかに、たくましく」という校訓をもとに、変化し続ける時代の中で、なりたい自分を見据え、主体的に学び、進路を切り拓き、将来社会に貢献できる生徒の育成を目指している。

今年度から、総合的な探究の時間を利用して「宇治田楽」について主体的に学び、実際に笛、躍り、太鼓等に触れてから発表者の希望を募集。2学期から宇治田楽まつり実行委員会の御指導のもと、本格的に練習を行っている。

活動実績

全国伝統文化祭 出演

近畿総合文化祭 出演

宇治田楽まつり 出演

演目

惣躍り

宇治田楽は、平安時代からの歴史を持ち、現代に復活した伝統芸能。宇治田楽まつり実行委員会の支援のもと、収穫を喜び、月ウサギの曲に合わせて舞い躍る月の使者、子ウサギたちを表現する惣躍りを演じる。

アピールポイント又は出演者の意気込み

今年度は総合的な探究の時間を使って、宇治田楽について自分たちが興味のある分野を深く学び、「惣躍り」を披露します。宇治田楽まつり実行委員会の方々からは、とても丁寧に御指導をいただきました。そんな御支援いただいた方々の為にも、精一杯発表したいと思います。

京都府の高校生がおもてなし

～令和6年度全国高校生伝統文化フェスティバル～

1 おもてなし隊とは

全国高校生伝統文化フェスティバルでは、全国から京都府へお越しいただく皆様を、高校生自らが考えた、京都ならではの「おもてなし」でお迎えします。

2 主な活動内容

- ・広報活動
- ・リハーサル運営
- ・ステージ参加
- ・全体交流会企画運営
- ・当日運営
- ・出演校インタビュー

など

3 生徒実行委員会

おもてなし隊として参加する各学校の代表生徒により構成される組織です。最高のおもてなしをするため、おもてなし隊の中心となって運営や企画立案、会議等を行います。

<令和6年度生徒実行委員会> (16名)

委員長	安部 早知花 (鴨沂)
副委員長	岡田 陽登 (鴨沂)、大塚 芭奈 (西京)
委員	沼田 りこ (北稜)、中島 千桜莉 (北稜)
	西村 花音 (西乙訓)、前田 りの (西乙訓)
	北田 ラク (京都八幡)、神館 璃彩希 (京都八幡)
	川本 葵 (城陽支援)、丸山 恭梧 (城陽支援)
	林 千尋 (西京)、
	稲田 京香 (京都先端科学大学附属)、
	大八木 一葉 (京都先端科学大学附属)、
	喜多 一紗 (京都両洋)、中野 希美 (京都両洋)

4 参加校 (全8校、計75名)

京都府立鴨沂高等学校、京都府立北稜高等学校、京都府立西乙訓高等学校、京都府立京都八幡高等学校 (南キャンパス)、京都府立城陽支援学校、京都市立西京高等学校、京都先端科学大学附属高等学校、京都両洋高等学校

おもてなし隊の高校生は、プロの接遇アドバイザーから指導を受けて、当日に臨みます。

